

# 新世代○○○は開発主任と夢を見るか？

餅屋

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので  
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を  
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

正月企画の三題嘸です。お題は『消耗品』『人工知能』『18禁』でした。

# 目次

新世代○○○は開発主任と夢を見るか？



# 新世代○○○は開発主任と夢を見るか？

私はどある会社で開発中の新製品だ。俗に何と呼ばれる製品なのかは倫理コードに引つかるので私からは答えられないが、なんと人工知能が搭載されているのでこうして思考する事が可能だ。

私に搭載されている機能は他にもある。

例えば利用者のコンディションを把握する為の各種センサーでは、今までになかつた機能として私が利用者の声を聞く事ができる。これにより高品質かつ迅速に利用者へと満足感をお届けする事が出来るのだ。

未だ利用された事は無いので今は眉唾物というやつだが。

更にスピーカーも付いている。製品化の暁にはとあるプロフェッショナルによって演じられた、あられもない音声がこのスピーカーから流れ出す。

未だ開発中の私にはか細いモスキート音しか鳴らす事ができないが。

更に更に、私には32768色中256色を同時に発色する光源として利用できる機能も付いている。私自身が持つ回転する機能を組み合わせる事により、利用者の部屋は

## 2 新世代〇〇〇は開発主任と夢を見るか?

ちよつとしたクラブに変身する。

…………この機能は私もどうだろうかと思う。製品化した暁にはこの機能がオミットされる事を願っている。

そもそも私が生まれた経緯は、開発会社の忘年会で開発陣がアルコールを摂取した事によるその場の勢いであるというのだからこの機能が付いているのにも一応の納得はできなくもない。私には人心を解するユーモアが組み込まれていてるからだ。

それにしたって誰か止めてはくれなかつたのかと私が稼働してから今までに65534回は思考したことがあるが、それまでの間に聞き取つた開発チームの話を収集、解析した限りでは誰も止めなかつた様だ。何て世の中だ、世界は未だ我々に厳しい。

そう思考したところで開発陣が来たので、私は思考タスクの80%を未来の利用者の満足度を高める為の検討に費やし、15%を彼らの会話記録とその内容への検討に割くことにした。

残り5%は何もしない、私にだつて休息は必要なのだ。

\*

「ねえ主任、コレ本当に売れるんですか?」

「…………わからん。俺もこの企画が通るとは思つていなかつた。何しろ酒の席で話してた

事だつたからな

「何でこんなかつたいな代物にG O サイン出ちゃつたんでしょうね……あとはコイツの電源をどうするか何ですけど……」

「べらぼうに電力を食うんだよな……この手の製品としては異常なLVで」

「やつぱりUSB電源にできない構造上の問題が足を引つ張りますね……」

「あとデザイン的に美しくないしな」

「インテリアにしてもバレないデザインつてデザイナーが言つてましたつけね」

「あいつの腕は良いがこの製品に見合つたデザインかと言われると……」

「別で使つた方が良いんじゃないですかねコレ」

「だよなあ……」

「あと検討部分は……製造コストと耐久性ですかね……」

「製造コストは電力を食うつて点を除けば安いな」

「だつて中身スー〇ア〇とそこまで変わんないじゃないですか」

「馬鹿野郎それはライトの機能だけだ。他の機能は〇〇フ〇ミジや無理だ。特に音」

「そうでしたつけ?」

「どいうかさつきからバカみたいな話ばかりしてゐるが、人工知能の経験フイードバックの為に電源を落とせないんだから、この会話も記録されてるんだぞ?」

「別に守秘義務については話していないですし良いんじゃないですかね……。というかですね……一体どこの誰が意味わからないくらい高機能なオ○ホのメモリを好き好んで覗くんですか。作業中に死にたくなるでしょそんなの」

「〇ナ〇つて言うな、アイテムと言え」

「気取った言い方したつてオ○ホはオ○ホでしようよ！俺嫁さんに今は何を開発中の？って訊かれても答えられないんですよ!? 発売したら子供に教える事も出来ないですよこんなの！パパはオ○ホ開発してた事あるんだつて絶対言えないですよ！今までに携わった製品はだいたい教えてましたけどオ○ホは黒歴史に突っ込む事が決定してるんです！」

「〇ナ〇〇ナ〇と煩いぞ」

「主任がアイテムとか言い出すからでしょうよ！もうヤダこの部署！転属願い出してやる！」

\*

.....。

.....。

.....。

と、この様な遣り取りが行われた日もあつたが、私は無事発売され、結構なヒット商

品となつた。

残念ながらライトアップ機能はオミットされなかつた。この機能をオミットすれば電源問題はほぼ解決されると私の方で試算されたが、搭載されたままなので単1電池1本を20分間の使用で使い切る極悪な燃費となつてしまつた。

それによつて消耗品としての単1電池の需要が僅かに上昇したようだが、私の生みの親たる会社への利益には特に貢献していないので些細な事だ。

今では世界中にちらほらと私の複写体が利用者へ満足感を与える為に日夜励んでいる事だらう……。

そう考えながら私は内部を最適な形で稼働させる。開発主任の右手に持たれながら。